

カラスのなみだ



やまだ まなご

カラスはとて
もかしこい鳥です



ほんとうは
まっしろなこころの
持ち主でした。

だけど。



ちよつとー！



水が汚れるでしょ
あっちへお行き！



ごめんなさい

カラスは皆の
嫌われ者でした。



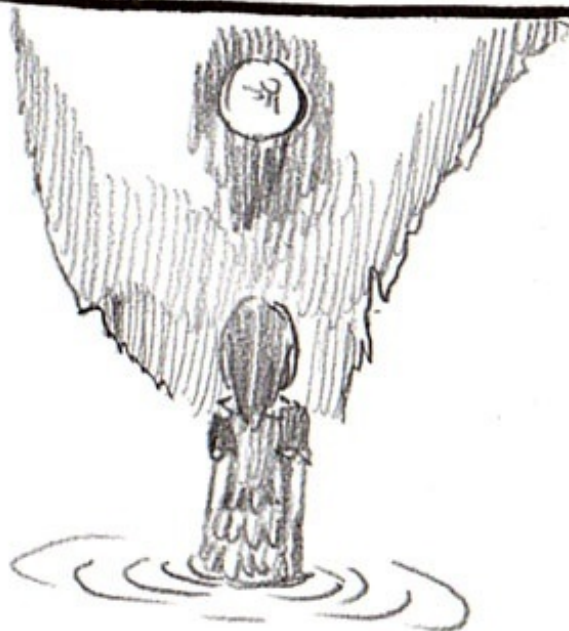
なぜなら

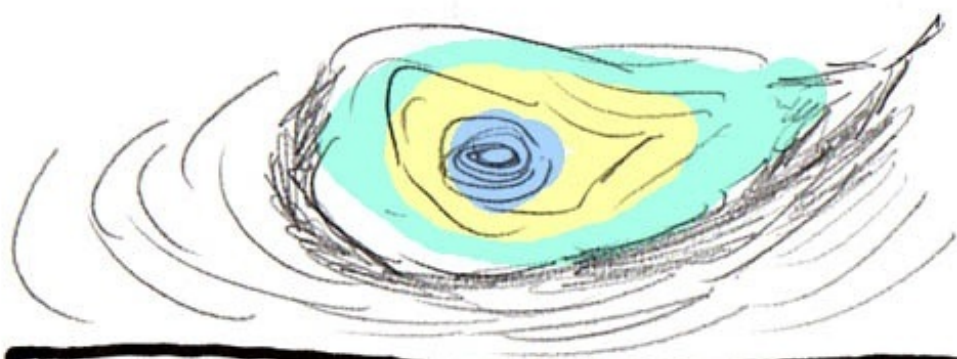
…羽が
黒いから。



カラスが水浴びを
許されるのは

鳥たちが眠った
真夜中のひとときだけ。

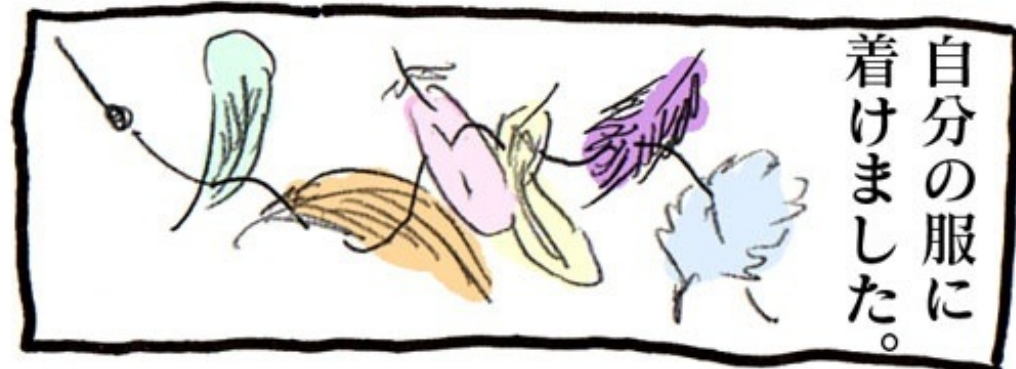




その日からカラスは
森中を歩いて
落ちている鳥の羽を
集め…



自分の服に
着けました。



わあ…

とってもきれい！





ところが。

この卑怯者！



その羽は
わたしのよ

私達の羽を
返せ！



声も

届きませんでした。



やめて

やめて！



水面にうつった
自分を見たとき



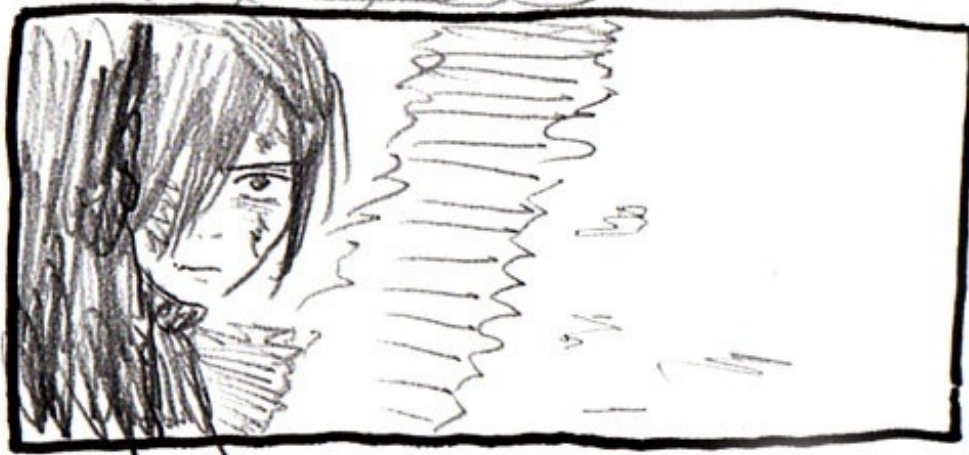
「なんて汚い
次女だろ。」

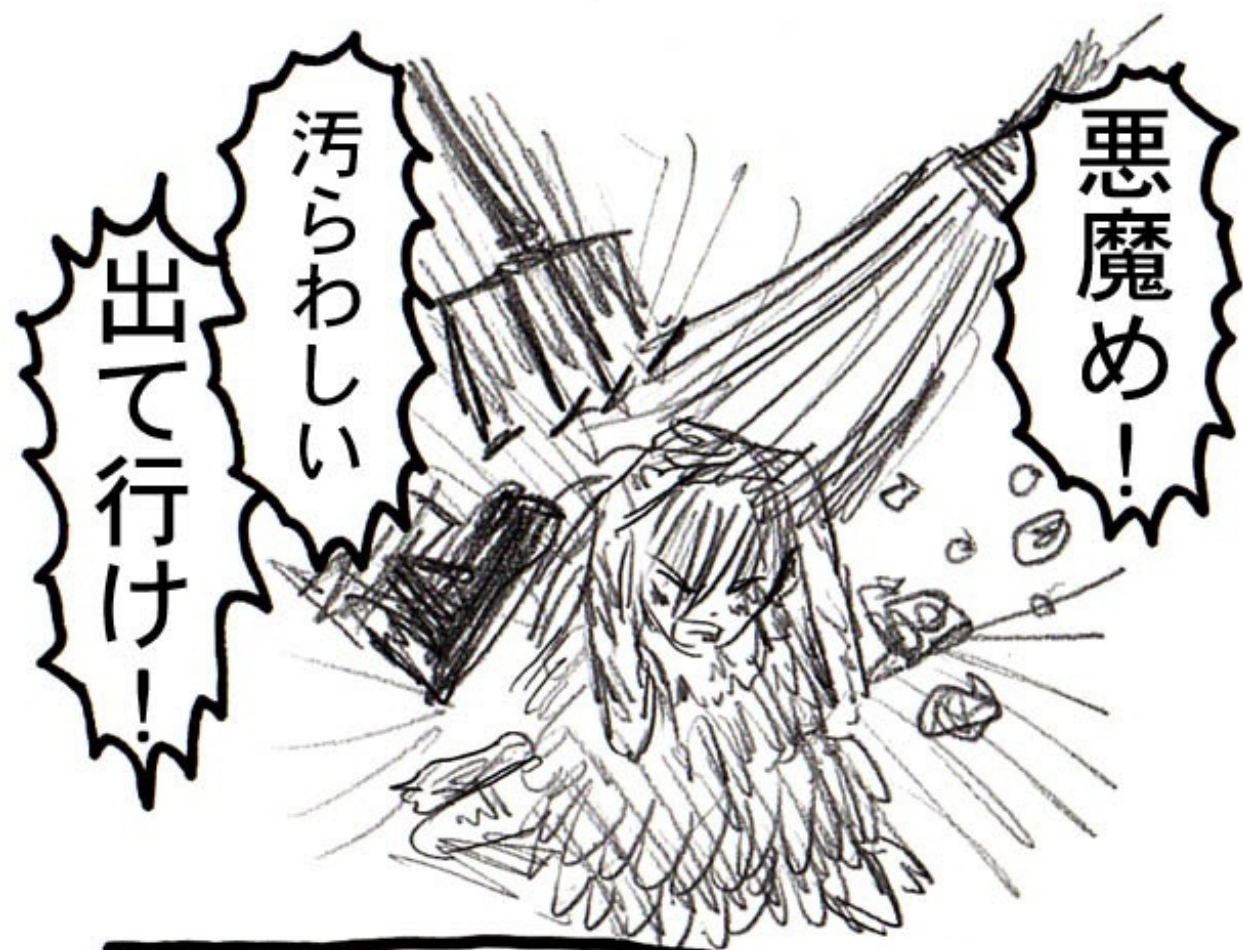
あははは……
ははは……

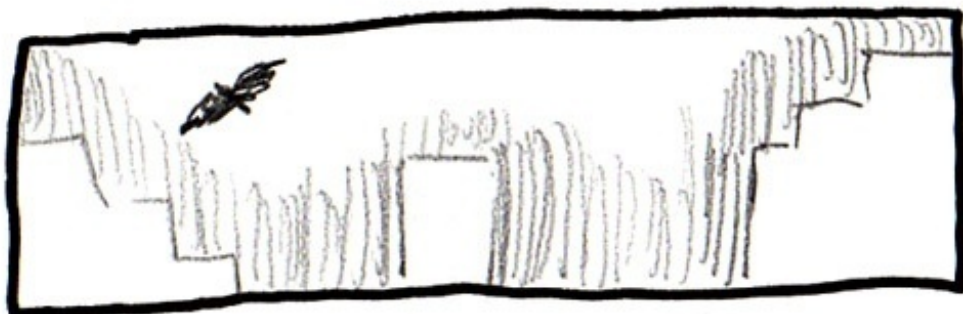
カラスは……



心がしだいに
薄汚れていくのを
感じました。







みきみに
きたなく
みすぽら
カラス
しい

身も心も



すつかり
薄汚れ

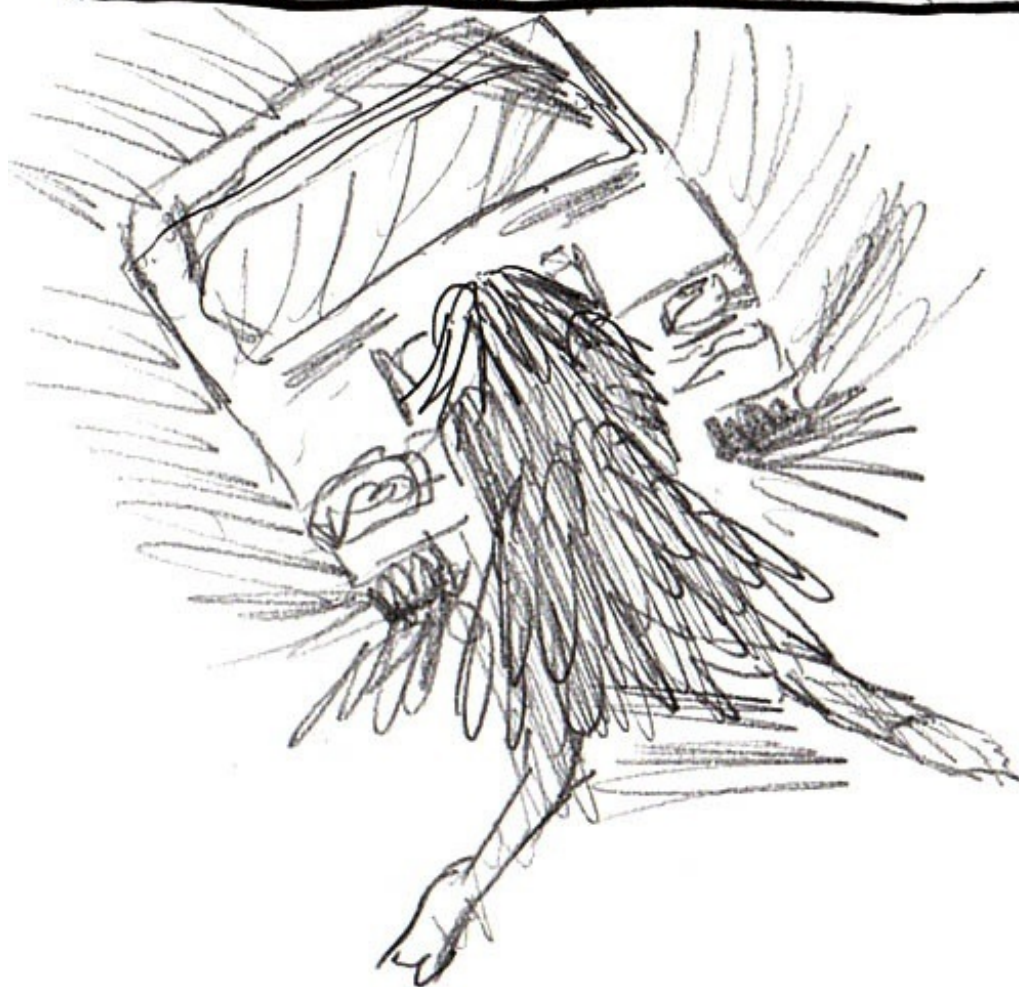


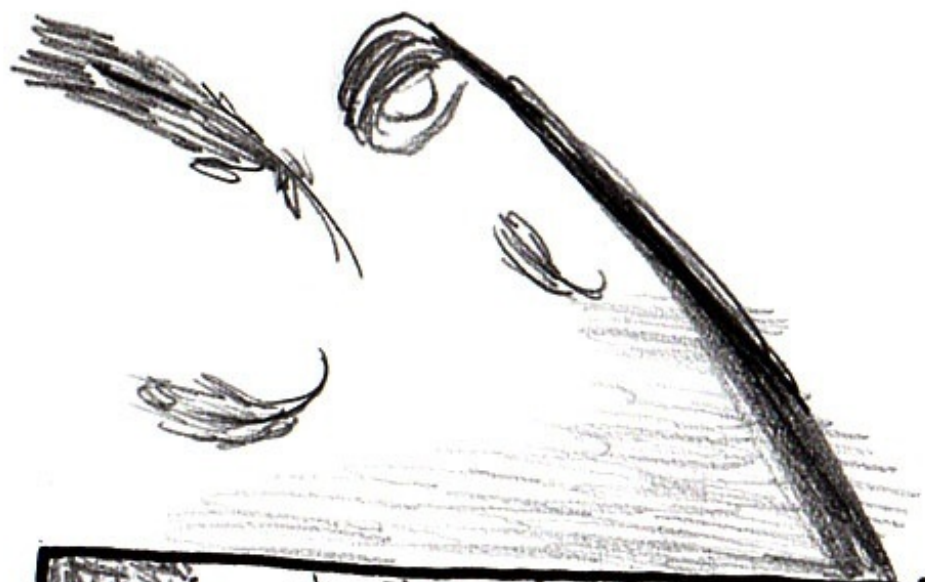
それでも
生きていくには

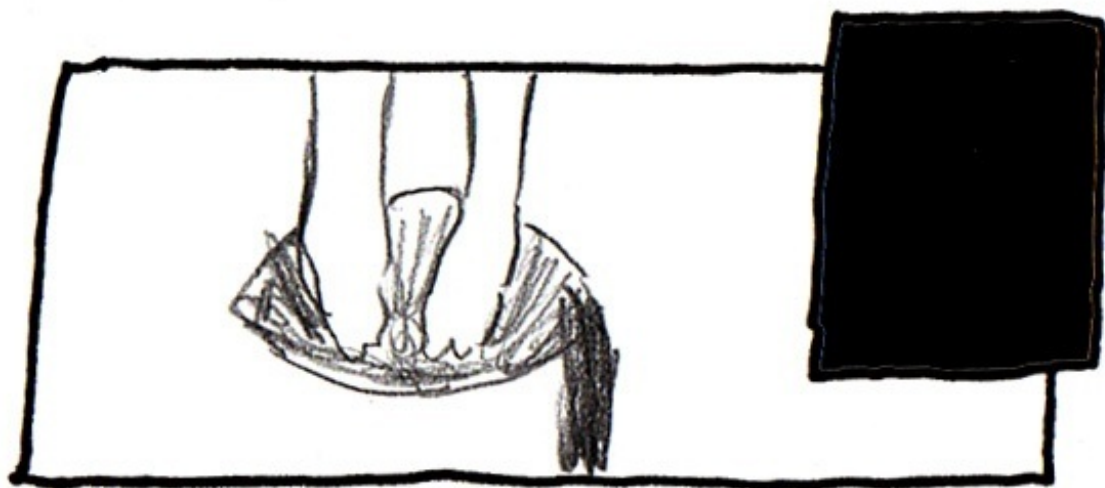


仕方がなかったのです。









私
一体……

何をしたの？

死んだカラスは
泣きました。

でも誰も

痛くて苦しくて
悲しくて。

気づかないでしょう

「カラスは

おろかな鳥だから」



誰も気づかないでしょうね。



しんだカラスの

ほんと
真実のなみだに。

おしまい。